

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2006年9月)

発表日：2006年11月13日(月)

～稼働率は一進一退だが高水準で推移～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭
TEL：03-5221-4525

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲8.5	2.8	5.1	▲0.2	▲0.2	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲8.0	0.4	3.2	0.1	▲0.2	1.9	6.3	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.4	0.3	3.7	0.6	▲4.8	▲2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3
	10-12月	2.3	2.6	4.5	9.8	2.9	0.9	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5
06	1-3月	▲0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲0.1	0.6	▲0.2	6.3	0.0	1.5
	4-6月	0.9	1.5	0.4	10.6	2.4	1.9	0.3	0.7	1.6	6.0	0.1	1.8
	7-9月	0.5	3.2	▲1.4	4.9	0.1	6.1	0.4	0.9	2.4	7.4	0.0	1.4
05	9月	0.2	0.8	▲0.1	4.4	2.5	▲1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲1.7	▲3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7
06	1月	▲0.8	1.5	0.5	12.8	▲3.8	▲2.0	▲0.1	0.5	▲0.1	6.7	▲0.1	1.5
	2月	▲0.9	2.5	▲1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
	3月	▲0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲0.2	5.8	0.0	1.5
	4月	2.4	1.0	▲1.8	7.1	4.7	1.4	0.1	0.8	1.6	6.3	0.0	1.5
	5月	▲2.5	1.5	4.2	14.5	▲10.5	0.4	0.1	0.8	0.3	6.1	0.1	1.9
	6月	2.2	2.1	▲0.3	10.4	7.2	3.7	0.0	0.7	0.0	5.6	0.0	2.0
	7月	▲0.7	2.9	▲1.6	7.9	▲1.6	5.6	0.2	0.9	1.1	6.7	0.0	2.0
	8月	1.5	4.1	0.5	6.0	4.2	11.9	0.2	1.1	1.6	7.6	0.0	2.0
	9月	▲1.2	2.6	▲4.1	1.0	▲5.5	2.1	0.0	0.8	0.3	7.8	0.0	0.2

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 稼働率は前月比▲1.2%と2ヵ月ぶりに低下

9月の稼働率指数は前月比▲1.2%と低下した。業種別にみると、15業種中7業種で上昇し、8業種で低下した。

低下に寄与した業種は、輸送機械工業（前月比▲5.5%）、情報通信機械工業（同▲17.6%）、電子部品・デバイス工業（同▲4.1%）等であり、上昇に寄与したのは電気機械工業（同+5.9%）や、鉄鋼業（同+2.1%）等となった。輸送機械工業は、普通乗用車などの生産が減少したため、稼働率が低下したが、前月に上昇した反動も大きいとみられる。情報通信機械工業も大幅な低下となったが、やはり前月にパソコンやデジタルカメラの生産が大きく増加したことの反動であると考えられる。

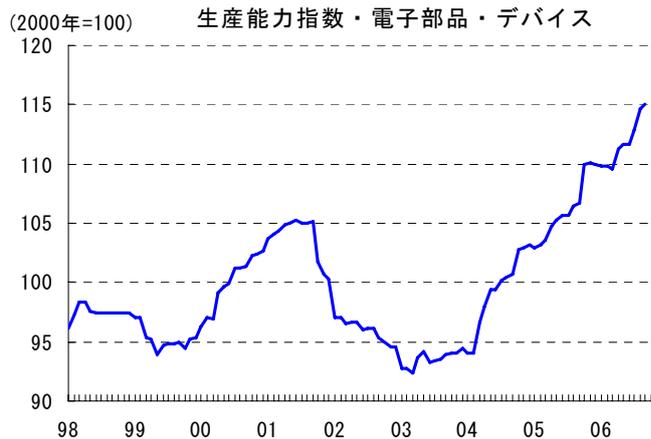
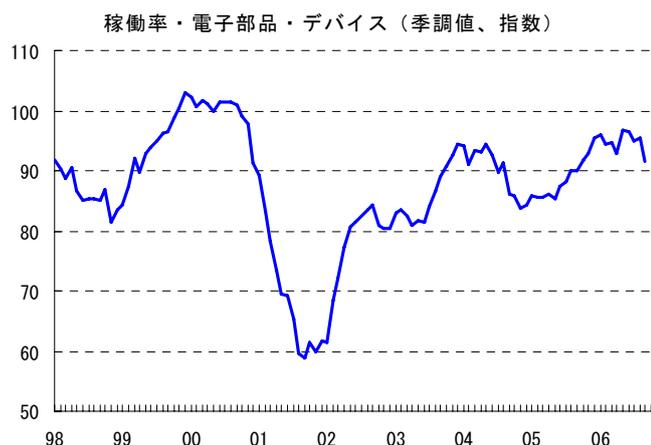
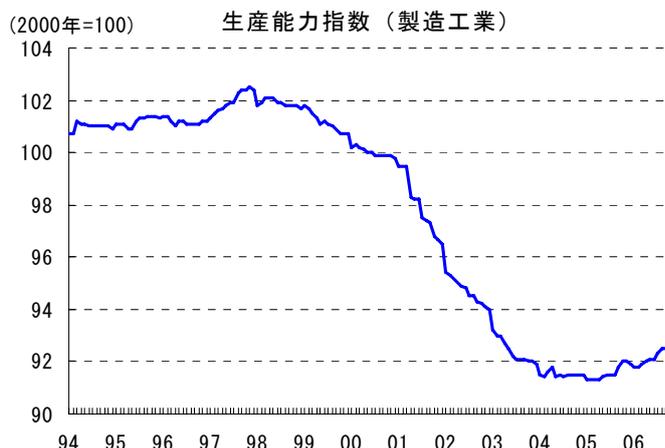
総じて見れば、稼働率はこのところ一進一退で推移しているものの上昇基調にあり、高水準の推移となっている。生産の先行きを展望すれば、米国経済の減速に伴う輸出の減速が明確化してくることやIT分野での在庫調整があると考えられるものの、ともに減速は軽微にとどまる公算が大きく、底堅い動きが見込まれる。稼働率についても、今後上昇傾向に頭打ち感が出てくる可能性はあるが、引き続き高水準での推移が見込まれる。

○ 生産能力指数は前月比横ばい

9月の生産能力指数は前月比横ばいとなった。電子部品・デバイス工業が前月比+0.3%、化学工業が同+0.2%と上昇したものの、一般機械工業が同▲0.1%、繊維工業が同▲0.4%、窯業・土石製品工業が同▲0.1%と低下した。

内外の設備投資が堅調な一般機械工業の低下は一時的と考えられるが、輸入品への代替が進んで国内生産

が減少している繊維工業や公共投資の削減の影響が大きい窯業・土石製品工業などでは引き続き生産能力の低下が続いた。一方、電子部品・デバイス工業は、前年対比では+7.8%と増加トレンドが明確になっているように、需要増に対応する形で生産能力の拡大が続いている。稼働率の上昇がピークアウトしてきていることなどから能力増強投資に今後一服感が出てくる可能性があるものの、内外需要の拡大を背景に同業種の生産能力の向上は続こう。全体として、日銀短観の設備投資計画が堅調なことに加え、設備に過剰感がみられないこと、企業の中期的な成長期待が高まっていることから、生産能力指数は緩やかながらも上昇傾向が持続すると判断する。



○ 鉱工業生産の確報は前月比▲0.7%と速報と変わらず

9月の鉱工業生産指数確報は、前月比▲0.7%（速報同▲0.7%）と速報段階と変わらなかった。ただし、出荷指数が前月比▲2.4%（速報同▲2.6%）と上方修正され、在庫指数は同+0.9%（速報同+1.0%）と小幅下方修正された。出荷の上方修正は、化学工業のマイナス幅が縮小したことや食料品・たばこ工業が前月比+0.4%となったことが影響し、在庫指数の下方修正は食料品・たばこ工業が前月比▲2.8%と減少したことが主因となった。先行きの動向が注目される電子部品・デバイス工業では特に修正はなかった。